こたえ合わせ

第1問 答え：ご先祖様の霊を迎えてお祀りする行事

解説：お盆は「盂蘭盆（うらぼん）」とも呼ばれ、ご先祖様の霊があの世から帰ってくるとされる期間です。家族が集まり、霊を迎えてもてなし、再びあの世へ送り返す大切な行事です。

第2問 答え：8月13日～16日

解説：一般的なお盆は8月13日にご先祖様をお迎えし、16日にお送りする4日間です。ただし東京など一部の地域では、新暦どおり7月に行う地域（7月盆）もあります。

第3問 答え：迎え火（むかえび）

解説：迎え火は8月13日の夕方に焚き、「ここに帰ってきてください」とご先祖様の霊を導く火です。使い終わった盆提灯の役割と同じで、霊が迷わず家に戻れるようにとの願いが込められています。

第4問 答え：送り火（おくりび）

解説：送り火は8月16日の夕方に焚き、ご先祖様の霊を再びあの世へ送り返します。京都の「大文字焼き（五山送り火）」は日本で最も有名な送り火のひとつで、毎年多くの人が訪れます。

第5問 答え：ご先祖様がこの世に素早く帰ってくるための乗り物

解説：キュウリで作る精霊馬は「馬」を表し、足が速い馬に乗ってこの世へ早く帰ってきてほしいという願いが込められています。一方、ナスで作るのは「牛」で、あの世へゆっくり帰ってほしいという意味があります。

第6問 答え：ご先祖様がこの世からゆっくりあの世へ帰るための乗り物

解説：ナスの精霊牛は「できるだけゆっくりあの世へ帰ってほしい」という気持ちを込めて作ります。足の遅い牛に乗せることで、あの世への旅をゆっくりにするという先人の優しい発想です。

第7問 答え：提灯（ちょうちん）

解説：お盆提灯は、ご先祖様の霊が迷わず家に帰ってこられるように道標（みちしるべ）として飾ります。特に初盆（はつぼん）の家では白い提灯を飾る風習が各地に残っています。

第8問 答え：盂蘭盆経（うらぼんきょう）

解説：盂蘭盆経はお釈迦様の弟子・目連（もくれん）が、亡き母を餓鬼道（がきどう）の苦しみから救うために供養をしたという話が記された経典です。この故事がお盆の起源とされています。

第9問 答え：帰ってきたご先祖様の霊を慰め、共に踊るため

解説：盆踊りは帰ってきたご先祖様の霊を迎え、共に踊って慰め、再びあの世へ送り返す行事として始まりました。現在は地域の交流行事として楽しまれていますが、本来は念仏踊りが起源です。

第10問 答え：メロン・スイカ

解説：お盆の時期はちょうど夏の旬の時期と重なるため、メロンやスイカ、桃などの夏の果物がお供え物として喜ばれます。「旬のもの」「故人が好きだったもの」をお供えするのが基本とされています。

第11問 答え：ご先祖様の霊に感謝を伝え、冥福を祈るため

解説：お盆のお墓参りは、ご先祖様への感謝と冥福を祈る大切な行為です。墓石を清め、花や線香をお供えし、手を合わせることで、先祖と子孫のつながりを大切にする日本の伝統が受け継がれています。

第12問 答え：初盆（はつぼん）または新盆（にいぼん・あらぼん）

解説：故人が亡くなって四十九日が過ぎた後、初めて迎えるお盆を「初盆」または「新盆」と呼びます。通常のお盆より丁寧に供養することが多く、白い提灯を飾ったり、親族が集まって法要を営む風習があります。

第13問 答え：精霊棚（しょうりょうだな）または盆棚（ぼんだな）

解説：精霊棚は盆の入り（13日）に設けられ、位牌・お供え物・精霊馬・盆花などを飾ります。ご先祖様がお盆の期間中に「くつろいでいただく場所」として用意するもので、地域によって飾り方が異なります。

第14問 答え：ご先祖様の霊が帰る道を照らす灯篭（ちょうちん）の代わり

解説：ほおずきの赤いふくろが提灯（ちょうちん）に似ていることから、ご先祖様の霊が迷わず帰ってこられるよう道を照らす灯篭の代わりとして飾られます。赤い色にも魔除けの意味があるとされています。

第15問 答え：「大」の字

解説：毎年8月16日に行われる京都の五山送り火では、「大文字（だいもんじ）」が最も有名です。東山如意ヶ嶽（ひがしやまにょいがたけ）に浮かぶ「大」の字の火が夜空に映え、ご先祖様の霊をあの世へ送ります。五山には「大」「妙法」「船形」「左大文字」「鳥居形」があります。